

協働事業計画評価書

事業者名	地区名	対象品目	計画内容	到達目標	現状値 (%) : H30	目標値 (%) : R6	実績値 (%)					達成率 (%)	検証方法	地方農政局等による評価
							R2	R3	R4	R5	R6			
拠点事業者 有限会社アド・ワン	北海道札幌市	野菜(トマト、リーフレタス、ピーツ、ケール)	【1年目】 ・ベビーリーフ、リーフレタス、トマト等の栽培において、台風や降雪によるハウス被害、温暖化による高温障害などの生産技術・指導の徹底 ・WEB会議によるセミナー等を開催し、連携農業者に対する技術指導 ・専門家による助言・指導、サンプル等の試作等 ・販売基本戦略構築に向けた検討を行うための分析・調査を実施	有限会社アド・ワンの総出荷量に占める加工・業務用向け出荷量の割合を年平均3ポイント以上増加(かつ目標年度までに輸出向け取組を開始)	0%	22.4% (628.9t/2805t)	0.4% (0.4ポイント増加)	0.5% (0.5ポイント増加)	1.5% (1.5ポイント増加)	2.9% (2.9ポイント増加)	22.4% (22.4ポイント増加) (558.3t/2489.9t)	0.0%	<p>到達目標で「総出荷量に占める加工・業務用向け出荷量の割合を年平均3ポイント以上増加(かつ目標年度までに輸出向け取組を開始)」について、22.4ポイント増加させており、目標は100%と計算されるが、生産量の実績値が目標値に届いていないため、0%と評価せざるを得ない。なお、輸出の取組については、開始しているため、引き続き継続していただきたい。</p> <p>なお、協働事業計画において、拠点事業者が具備すべき3つの機能の全てについて強化を図ることとされているところ。取組状況は以下のとおり。</p> <p>【令和6年度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 生産安定・効率化機能 ・WEB会議等を通じ連携農業者と生産体制強化に向けた栽培管理方法の助言・指導及び情報交換を行うとともに、生産体制の構築に向けた生産グループ農場での実需者などからの要望を受け作付計画見直し等を実施。 ・産地PU事業で整備した、生産技術高度化施設整備2件及び農産物処理加工施設1件が本格稼働。 供給調整機能 ・農産物処理加工施設及び生産技術高度化施設が本格稼働。 ・加工・業務向けのカット野菜などの販売に向けた、野菜志向など消費者ニーズの把握を実施。 実需者ニーズ対応機能 ASIAGAP2.0以上の認証取得継続審査及び有機JASの認証取得継続審査に向けた野菜管理表等の資料作成と審査を実施。 その他 ・令和5年度に引き続き、生産グループ農場「ナナブランドファーム」のグループ規約に基づいた取組を実施 ・前年度の実績を踏まえWEB会議等を通じナナブランドファームの生産方法や使用する種などの基準・出荷基準等を再確認してもらうための情報交換会・研修会・勉強会を実施。 <p>総出荷量が目標に到達しなかったのは、高温による品質劣化及び栽培管理の調整に起因する廃棄等が主な要因であるため、原料調達産地切り替えや天候に左右されにくい生産管理の徹底に努めていただきたい。</p>	
拠点事業者 株式会社アド・ワン・ファーム	北海道札幌市													
拠点事業者 株式会社エア・ウオーター農園	北海道札幌市													
連携者1 株式会社Jファーム	北海道札幌市													
連携者2 株式会社やま道の里	北海道江別市													
連携者3 株式会社エコーファーム	兵庫県神戸市													
連携者4 山根農場	北海道苫小牧市													
連携者5 JAいずもアグリ開発株式会社	鳥根県出雲市													
連携者6 株式会社いわて銀河農園	岩手県大船渡市													
連携者7 アグリビジョン株式会社	山梨県北杜市													

事業評価書

拠点事業者:有限会社アド・ワン

事業	成果目標の達成率※	総合所見
令和3年度 産地生産基盤パワーアップ事業 (うち新市場対応に向けた拠点事業者の育成及び連携産地の体制強化) (整備事業)	46.4%	【成果目標】 ・当該品目の全出荷量に占める契約取引の割合を4ポイント以上増加させる。 ・現状の当該品目の全出荷量に占める契約取引の割合が48.0%以上。 (現状)59.7% (目標)77.6% (実績)68.0% 対象品目の令和6年度における全出荷量実績が2,490t、契約取引量1,693tであったため契約比率は68.0%となり、目標未達成となった。 目標未達成となった要因としては、工場の竣工が計画時より約1年遅れたことにより、本来令和5年度から取り組む予定であったカット野菜製品ラインナップの定着までのプロセス(営業・商談→規格開発→工程確立→テスト販売・改良→定着)が集中したため、作業に時間を要したことが挙げられる。 令和7年度は、令和6年度に開発に取り組んだ新製品(横ピロー・縦ピロー・嵌合パックサラダラインナップおよび野菜スティック)が概ね定着し、目標達成に向けて順調に推移している。
	100.0%	【成果目標】 当該品目の全出荷量に占める加工向けの割合を8ポイント以上増加させる。 (現状)0.20% (目標)22.4% (実績)22.4% 新規加工製品開発とその増産に注力したことにより、令和6年度における対象品目の全出荷量は2,490t、うち加工向けトマト類335t、カットサラダ155t、カットネギ類57t、その他加工品目11t、合計558tとなり、加工向け割合は22.41%となり、目標に到達した。一方で、総出荷量及び加工向け出荷量の実績値が目標値を下回っているため、改善指導は必要となる。

拠点事業者:株式会社アド・ワン・ファーム

事業	成果目標の達成率※	総合所見
令和3年度 産地生産基盤パワーアップ事業 (うち新市場対応に向けた拠点事業者の育成及び連携産地の体制強化) (整備事業)	38.7%	【成果目標】当該品目の単位収量当たりの労働時間を5%以上削減 (現状)0.102h/kg (目標)0.071h/kg (実績)0.090h/kg 生産技術高度化施設の竣工が遅れたため、当初の計画どおりに生産ができず目標は未達成となった。 労働時間に関しては、出荷へ至らなかった試験栽培に労力を要したことやリーフレタスの正常なシステム稼働に時間を要したため、実績としては目標値よりも単位当たりの時間数が増加となった。
	52.4%	【成果目標】当該品目の単位面積当たりの販売額を3%以上増加 (現状)12,713,151円/10a (目標)22,254,870円/10a (実績)17,709,597円/10a 生産技術高度化施設の竣工が遅れたため、当初の計画どおりに生産ができず目標は未達成となった。 試験栽培や労力を踏まえて、収穫実績と合わせて計算すると、収量の低下及び単価の増加へとつながった。システムを運用する中でまだ修正や調整の必要が残ってはいるものの、栽培方法で一定のデータを得られたため、次年度以降は改善すると考えられる。

拠点事業者:株式会社エア・ウォーター農園

事業	成果目標の達成率※	総合所見
令和4年度 産地生産基盤パワーアップ事業 (うち新市場対応に向けた拠点事業者の育成及び連携産地の体制強化) (整備事業)	100.0%	【成果目標】当該品目の全出荷量に占める契約取引の割合を5ポイント以上増加 (現状)0% (目標)100.0% (実績)100.0% 2024年対象品目の全出荷量実績が957t、契約取引量957tであったため契約比率は100%となった。 出荷先である有限会社アド・ワンに全量出荷したため、目標数値に到達したが、総出荷量の実績値(957t)が目標値(1026t)を下回っているため、改善指導が必要。未達要因としては、「トマトかいよう病」が発生し、D温室で蔓延したため、株撤去に伴い総株数が減り、収穫量が減少したことによる。
	102.6%	【成果目標】当該品目の全出荷量に占める加工向け又は外食・中食向けの割合を5ポイント以上増加 (現状)0% (目標)34.1% (実績)35.0% 2024年対象品目の全出荷量実績が957t、全出荷量に占める加工向けトマトが335t、加工向け割合は35%となった。 出荷先である有限会社アド・ワンの加工工場に計画通り出荷を行ったため、加工向け割合の目標数値には到達したが、総出荷量の実績値(957t)が目標値(1026t)を下回っているため、改善指導が必要。未達要因としては、「トマトかいよう病」が発生し、D温室で蔓延したため、株撤去に伴い総株数が減り、収穫量が減少したことによる。

※小数点第1位まで記載する

別添様式3

到達目標の達成率が90%未満の拠点事業者

拠点事業者: 有限会社アド・ワン

【北海道農政事務所】

成果目標の 具体的な内容	現状値	目標値 (令和6年)	事業実施後(目標年度)	目標 達成 状況	改善目標 年度	(参考) 改善指導の判断理由
			実績値			
総出荷量に占める加工・業務用向け出荷量の割合を年平均3ポイント以上増加(かつ目標年度までに輸出向け取組を開始)	0%	22.4% (628.9t/2805t)	22.4% (558.3t/2489.9t)	0%	令和9年度	出荷量の実績値が目標値に達していないことから、達成状況が0%と低調であり、協働事業計画に沿った取組を継続していくために改善指導が必要である。総出荷量に占める加工・業務用向けの割合は100%に達しているが、出荷量の目標も達成するために、安定した生産量確保のために高度環境制御栽培施設の安定的な稼働及び産地における生産管理の徹底が必要。

(注)1. 価格補正を行っている場合は価格補正後の実績を記入する。

別添様式4

成果目標の達成率が90%未満の拠点事業者

拠点事業者: 有限会社アド・ワン

【北海道農政事務所】

事業内容	補助対象取組	成果目標の具体的な内容	現状値	目標値 (令和6年)	事業実施後(目標年度)		目標達成状況	改善目標年度	(参考) 改善指導の判断理由
					実績値	実績値			
令和3年度 産地生産基盤パワーアップ事業(うち新市場対応に向けた拠点事業者の育成及び連携産地の体制強化) (整備事業)	農産物処理加工施設	当該品目の全出荷量に占める契約取引の割合を4ポイント以上増加させる。 ・現状の当該品目の全出荷量に占める契約取引の割合が48.0%以上。	59.7%	77.6%	68.0%	46.4%	令和9年度	契約取引の割合については、46.4%と低調であり、加工向け割合については全出荷量に対し、全量が加工用へ仕向けたことから目標達成状況が100%となっているが、生産量の実績値が目標値を下回っていることから、生産量の確保について、改善指導が必要。事業実施主体は、新規加工製品の開発やその増産にも力を入れているため、カット野菜の引き合いの強さを活かした契約取引の拡大に向けた取組にも注力してもらう。また、輸出向けに開発を進めている野菜パウダーについても、販路の確保と共に果敢にチャレンジしていただきたい。	
		当該品目の全出荷量に占める加工向けの割合を8ポイント以上増加	0.2%	22.4% (628.9t/2805t)	22.4% (558.3t/2489.9t)	100.0%			

拠点事業者: 株式会社アド・ワン・ファーム

事業内容	補助対象取組	成果目標の具体的な内容	現状値	目標値 (令和6年)	事業実施後(目標年度)		目標達成状況	改善目標年度	(参考) 改善指導の判断理由
					実績値	実績値			
令和3年度 産地生産基盤パワーアップ事業(うち新市場対応に向けた拠点事業者の育成及び連携産地の体制強化) (整備事業)	生産技術高度化施設 (高度環境制御栽培施設)	当該品目の単位収量当たりの労働時間を5%以上削減	0.102h/kg	0.071h/kg	0.090h/kg	38.7%	令和9年度	達成状況が90%未満と低調であるため、改善指導が必要である。試験栽培や栽培システムの正常稼働に労力がかかったことが主な未達要因であるため、今後は令和6年度で得た栽培データや生産管理の知見を基に市場のニーズを的確にとらえた生産体系を確立してもらいたい。	
		当該品目の単位面積当たりの販売額を3%以上増加	12,713,151円/10a	22,254,870円/10a	17,709,597円/10a	52.4%			

拠点事業者: 株式会社エア・ウォーター農園

事業内容	補助対象取組	成果目標の具体的な内容	現状値	目標値 (令和6年)	事業実施後(目標年度)		目標達成状況	改善目標年度	(参考) 改善指導の判断理由
					実績値	実績値			
令和4年度 産地生産基盤パワーアップ事業(うち新市場対応に向けた拠点事業者の育成及び連携産地の体制強化) (整備事業)	生産技術高度化施設 (高度環境制御栽培施設)	当該品目の全出荷量に占める契約取引の割合を5ポイント以上増加	0.0%	100% (1026t/1026t)	100% (957t/957t)	100% (957t/957t)	令和9年度	全出荷量に対し、全量がアド・ワンへ出荷したことから目標達成状況が100%となっているが、生産量の実績値が目標値を下回っていることから、生産量の確保について、改善指導が必要。令和6年度はトマトかいかいよう病が発生したことによる生産量の低下が見られたため、適期防除等の生産管理及びハイワイヤー誘引方式を活かした収量の増加に努めていただきたい。	
		当該品目の全出荷量に占める加工向け又は外食・中食向けの割合を5ポイント以上増加	0.0%	34.1% (350t/1026)	35.0% (335t/957t)	102.6% (335t/326t)			

(注) 1. 価格補正を行っている場合は価格補正後の実績を記入する。

協働事業計画評価書

事業者名	地区名	対象品目	計画内容	到達目標	現状値 (ha):R1	目標値 (ha):R5	実績値 (ha)					達成率 (%)	検証方法	地方農政局等による評価
							R2	R3	R4	R5	R6			
拠点事業者 そうべつアグリフーズ株式会社	北海道 有珠郡 壮瞥町	野菜 (たまねぎ)	<p>【1 生産安定・効率化機能】</p> <p>①作付面積の拡大(他産地)及び 直播栽培の実施 ②高性能収穫機・灌水システムの導入</p> <p>【2 供給調整機能】</p> <p>①貯蔵・選果・加工施設の整備</p> <p>【3 実需者ニーズ機能】</p> <p>①グローバルGAP団体認証の取得 ②食品安全システム認証FFSC22000の取得</p>	総生産面積の10%以上の増加	13.5ha	70ha	30.5ha	45.0ha	55.4ha	2.3ha	2.5ha	-19.4%	<p>-19.4%=(2.5-13.5)÷(70-13.5)</p> <p>【算出方法】 (実績値-現状値)÷(目標値-現状値)×100</p>	<p>到達目標である「総生産面積の10%以上の増加」について改善計画1年目(令和6年)における総生産面積は2.5haであった。改善計画目標年である令和8年に向けて引き続き面積拡大を推進いただきたい。</p> <p>なお、協働事業計画において拠点事業者が三つの機能において具備・強化をはかることとされている。取組状況は以下のとおり。</p> <p>【改善計画1年目 令和6年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生産安定・効率化機能 ・近隣地域との取り組みを強化する為に、玉ねぎの選果・箱詰め受託業務の取り組みを開始。伊達市の生産者からの玉ねぎを中心に集荷。 ・有限会社ミナミアグリシステムが経営及び協働事業計画から脱退後の令和5年度の壮瞥町玉ねぎ生産加工組合の作付面積は2.5haと情報が入っている。 ● 供給調整機能 ・令和5年に複数販売先との商談を実施したことで、令和6年では着実に実績が出始めている。北海道全域から玉ねぎを集荷することで販売先へ安定的な供給を可能にしている。 ・端境期の5月～7月の安定調達強化として岡山県産玉ねぎに加えて宮城県産玉ねぎの仕入れを開始。 ● 実需者ニーズ機能 ・北海道HACCPの認定 <p>生産面積の拡大には苦慮しているものの、整備した施設(集出荷貯蔵施設及び農産物処理加工施設)における玉ねぎの取扱量は増加傾向にあり、供給調整機能の強化を中心に改善に向かっていくことから、販路拡大等による実需との更なる繋がりを進めること及び生産者の拡大による生産力の向上にも注力していきたい。</p>
連携者1 有限会社ミナミアグリシステム	北海道 有珠郡 壮瞥町													
連携者2 壮瞥町玉ねぎ生産加工組合	北海道 有珠郡 壮瞥町													

事業評価書

拠点事業者: そうべつアグリフーズ株式会社

事業	成果目標の達成率※	総合所見
令和2年度 強い農業・担い手づくり総合支援交付金 生産事業モデル支援タイプ (推進事業)	37.6%	【成果目標】 販売額の10%以上の増加 (現状)50,760千円 (目標)304,738千円 (実績)146,217千円 改善計画1年目となった本年は生産体制を強化し加工品の販売に注力。新規顧客も順調に獲得しており売り上げを拡大。また、新たに選果棟での受託業務も開始。玉ねぎの取扱量も増加しており各設備の稼働率も上がっている。R5年の目標に対する達成率は38%であるが前年対比では137%と増加している。
令和2年度 強い農業・担い手づくり総合支援交付金 生産事業モデル支援タイプ (整備事業)	166.7%	【成果目標】 全出荷量に占める加工向け又は外食・中食向けの出荷量の割合増加 (現状)0% (目標)60% (R6実績)100% 加工・業務用向けの割合については、加工前の玉ねぎ販売も加工向けのみであったことから、全出荷物が加工向け又は外食・中食向けの出荷となったが、全出荷量の実績値(756,982kg)が目標値(3,850,000kg)を下回っているため、改善指導が必要。
	47.9%	【成果目標】 当該品目の契約取引数量を10%以上増加 (現状)0% (目標)38.2% (実績)18.3% 剥き玉ねぎについて、令和5年は自社製品での使用が主体となり、契約取引の割合は4.2%と大幅未達であった。令和6年は目標達成に向け、新たな業務用冷凍素材の製造を開始し、カゴメグループのネットワークを活用して販売。剥き玉ねぎは商社・卸のネットワークを活用し販路拡大し着実に販売数量が増加。目標には未達ではあるが、目標達成率はR5年度の10.9%からR6年度は47.9%になった。引き続き目標達成に向けて既存取引先への販売数量増と販路開拓を加速していく。
令和3年度 強い農業・担い手づくり総合支援交付金 生産事業モデル支援タイプ (推進事業)	37.6%	【成果目標】 販売額の10%以上の増加 (現状)50,760千円 (目標)304,738千円 (実績)146,217千円 改善計画1年目となった本年は生産体制を強化し加工品の販売に注力。新規顧客も順調に獲得しており売り上げを拡大。また、新たに選果棟での受託業務も開始。玉ねぎの取扱量も増加しており各設備の稼働率も上がっている。R5年の目標に対する達成率は38%であるが前年対比では137%と増加している。
令和3年度 強い農業・担い手づくり総合支援交付金 生産事業モデル支援タイプ (整備事業)	155.8%	【成果目標】 全出荷量に占める加工・業務用向けの割合を5ポイント以上増加 (現状)0% (目標)64.2% (実績)100% 加工・業務用向けの割合については、加工前の玉ねぎ販売も加工向けのみであったことから、全出荷物が加工向け又は外食・中食向けの出荷となったが、全出荷量の実績値(756,982kg)が目標値(3,850,000kg)を下回っているため、改善指導が必要。
	47.9%	【成果目標】 当該品目の契約取引数量を10%以上増加 (現状)0% (目標)38.2% (実績)18.3% 剥き玉ねぎについて、令和5年は自社製品での使用が主体となり、契約取引の割合は4.2%と大幅未達であった。令和6年は目標達成に向け、新たな業務用冷凍素材の製造を開始し、カゴメグループのネットワークを活用して販売。剥き玉ねぎは商社・卸のネットワークを活用し販路拡大し着実に販売数量が増加。目標には未達ではあるが、目標達成率はR5年度の10.9%からR6年度は47.9%になった。引き続き目標達成に向けて既存取引先への販売数量増と販路開拓を加速していく。

※小数点第1位まで記載する

別添様式3

到達目標の達成率が90%未満の拠点事業者

拠点事業者: そうべつアグリフーズ株式会社

【北海道農政事務所】

成果目標の具体的な内容	現状値	目標値 (令和5年)	事業実施後(目標年度)	目標達成状況	改善目標年度	(参考) 改善指導の判断理由
			実績値			
総生産面積の10%以上の増加	13.5ha	70ha	2.5ha	-19.4%	令和8年度	達成状況が-19.4%と低調であり協働事業計画に沿った取組を継続していくために継続して改善指導が必要である。経営再建に向けた取り組みが第一優先となる中で補助事業により整備した施設や農業機械を最大限活用することが事業再建につながる。したがって改善指導にあたっては、経営改善を後押しする観点からも作付面積や取扱数量の拡大に向けた取組の強化を引き続き指導していく必要がある。

(注)1. 価格補正を行っている場合は価格補正後の実績を記入する。

別添様式4

成果目標の達成率が90%未満の拠点事業者

拠点事業者: そうべつアグリフーズ株式会社

【北海道農政事務所】

事業内容	補助対象 取組	成果目標の具体的な 内容	現状値	目標値 (令和5年)	事業実施後(目標年度)	目標 達成 状況	改善目標 年度	(参考) 改善指導の判断理由
					実績値			
令和2年度 強い農業づくり総合支援交付金 生産事業モデル支援タイプ (推進事業)	農業機械 リース導入	販売額の10%以上の増 加	50,760千円	304,738千円	146,217千円	37.6%	令和8年度	達成状況が90%未満の取組が多くみられること及び100%に到達していても、実績値が目標値に届いていないことから改善指導が必要である。経営再建に向けた取り組みが第一優先となる中で補助事業により整備した施設や農業機械を最大限活用することが事業再建にも繋がる。したがって改善指導にあたっては、施設や機械の稼働率向上の観点からも、作付面積や取扱数量の拡大に向けた取組の強化を引き続き指導していく必要がある。
令和2年度 強い農業づくり総合支援交付金 生産事業モデル支援タイプ (整備事業)	集出荷貯蔵 施設新設	全出荷量に占める加工 向け又は外食・中食 向けの出荷量の割合 増加	0%	60.0% (2,310,000kg /3,850,000kg)	100.0% (756,982kg/756,982kg)	166.7%		
		当該品目の契約取引 数量を10%以上増加	0%	38.2%	18.3%	47.9%		
令和3年度 強い農業づくり総合支援交付金 生産事業モデル支援タイプ (推進事業)	GGAP認証 取得	販売額の10%以上の増 加	50,760千円	304,738千円	146,217千円	37.6%		
令和3年度 強い農業づくり総合支援交付金 生産事業モデル支援タイプ (整備事業)	農産物処理 加工施設新 設	全出荷量に占める加工 業務用向けの割合 を5ポイント以上増加	0%	64.2% (2,471,700kg /3,850,000kg)	100.0% (756,982kg/756,982kg)	155.8%		
		当該品目の契約取引 数量を10%以上増加	0%	38.2%	18.3%	47.9%		

(注) 1. 価格補正を行っている場合は価格補正後の実績を記入する。